



令和8年度 事業計画

(令和8年4月1日～令和9年3月31日)



— 目 次 —

I . 基本方針	1
II . 事業計画	
[九州国際大学]	
1 . 教育概要	3
2 . 学生募集	5
3 . 教育・研究	8
4 . 学修支援	10
5 . 学生支援	11
6 . 地域連携・社会連携	14
7 . 国際交流	16
8 . 就職支援	17
9 . 将来構想の検討・推進	20
[九州国際大学付属高等学校]	
1 . 教育概要	23
2 . 教育設計	24
3 . 学修支援	24
4 . 生徒募集	27
[九州国際大学付属中学校]	
1 . 教育概要	28
2 . 教科目標	28
3 . 教育設計	29
4 . 生徒募集・学校広報活動	32
[学校法人]	
1 . 管理運営	34
2 . 施設拡充関係	35
3 . 社会貢献関係	36
4 . 財務関係	37
5 . 中長期計画関係	37
6 . 情報公開	38
III . 令和8年度予算概要	
1 . 事業活動収支予算	39
2 . 予算編成方針等	39

I. 基本方針

[学校法人]

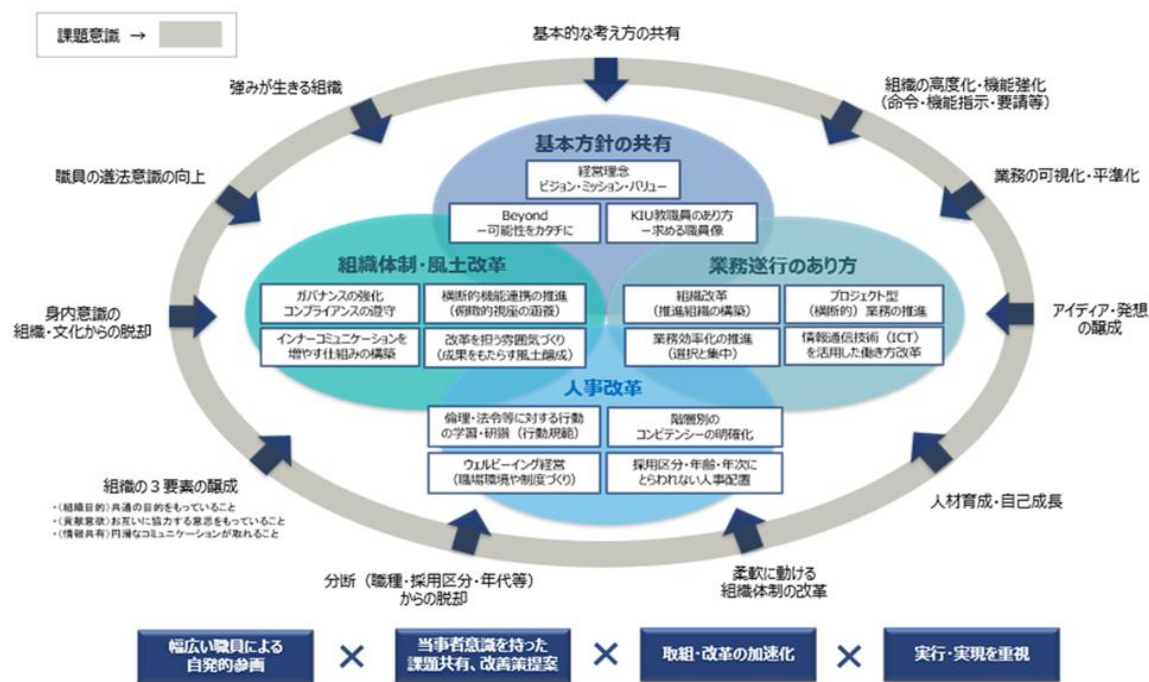
学校法人九州国際大学（以下、「本学園」という。）は、戦後間もない昭和 22 年に創立され、以来、「塾的精神」を建学の精神として掲げ、地域社会の文化向上と誠実有為なる人材の育成に力を尽くしてまいりました。この建学の精神は、教育・研究・社会貢献のあらゆる活動の根幹に脈々と受け継がれ、本学園が歩んできた歴史を形づくる確固たる理念として、今日までその光を失うことなく受け継がれています。

現在では、大学・大学院、附属高等学校、附属中学校を擁する総合学園へと発展し、「地域とともに歩む教育」を基調として、地域社会および国際社会から信頼される人材の育成に取り組んでおります。人口構造の変化、グローバル化の深化、ICT の急速な進展、地域における教育ニーズの多様化など、社会は今、大きな転換点を迎えています。しかし、どれほど時代が変化しても、学園に求められる使命は、確かな知識と品性を備え、主体的に社会を切り拓いていく力を持つ人材の育成であり、その使命は決して変わることはありません。

令和 7 年度から施行された改正私立学校法に関しては、寄附行為の改正、新たな規程体系の整備、ガバナンスの強化、情報公開の拡大など、多岐にわたる対応が求められました。本学園では、令和 6 年度中に必要な準備をすべて整え、令和 7 年度から始まった新制度下での運営を適切に開始することができました。法改正対応を通じて、理事会・評議員会・監事・会計監査人といった各機関の役割と責務が明確化され、ガバナンスの透明性と健全性は一段と強化されています。

また、令和 7 年度には新理事長体制が発足し、本学園は創起 100 周年（2030 年）の節目に向け、新たな方向性を示す重要な局面を迎えています。新体制のもと、第四期中期経営計画（2024～2028 年度）が掲げる諸施策を着実に推進し、教育研究活動の質保証、組織基盤の強化、地域貢献の深化に向けた取り組みがさらなるスピード感をもって進められています。

中期経営計画の実効性を高める組織創造に向けた全体像



今後、本学園として推進すべき人材育成及び組織構造改革のあり方について、「文部科学省未来検討タスクフォース（報告）」を参考に作成。

中でも、令和9年4月開設を予定している看護学部を設置準備は、いよいよ佳境を迎えます。地域医療を支える専門職人材の育成は、地域社会からの期待が非常に大きく、本学園としても重要な社会的使命の一つと位置づけています。学部設置の可否に直結する本年度は、カリキュラム整備、教員組織の構築、実習先の確保など、学園を挙げた最終調整に全力で取り組んでまいります。

さらに、改正私学法のもとで求められる内部統制システムについては、令和7年度に整備した制度や規程の運用状況を丁寧に検証し、その実効性を高めるための改善サイクルを構築していくことが令和8年度の重要課題となります。内部統制は単なる形式的整備にとどまらず、学園の健全な経営と持続的な発展を支える基盤であり、その成熟度を高める取り組みを継続してまいります。

創起100周年を目前に控える今、「地域から信頼され、選ばれる学園」であり続けるためには、建学の精神に立ち返りながら、同時に未来を見据えた改革を進めることが不可欠です。社会や地域の期待に応えるとともに、次世代の学園像を明確に描き、その実現に向けて不断の努力を重ねていくことこそが、本学園の責務であります。

令和8年度も、本学園は教職員が一丸となり、建学の精神を礎としながら、新たな価値の創造と学園の持続的発展に向けた歩みを力強く進めてまいります。

[大学・大学院]

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

本学の使命・目的及び教育目的を達成するために、法学部法律学科、現代ビジネス学部地域経済学科・国際社会学科及び大学院法学研究科を設置し、それぞれの専門領域等に応じた教育研究活動を行っています。

大学部門では、教育研究活動、地域貢献活動、及び国際交流活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入口の水準向上に繋がる好循環の創出」に向け、“地域に根ざした教育重視の大学”、“国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材の育成”を中期目標に掲げ、教職員が一体となって人材育成に取組み、卒業後は自立した職業人・社会人として活躍できるよう「就業力」、「学士力」を育ててまいります。

[中学校・高等学校]

学校教育には、今後、「広く社会を俯瞰するグローバルな視野」、「自ら判断し積み上げていく主体的な学び」、「先進的な学習スキルの獲得」、「他者との積極的な協働」、「社会の基盤づくりに意欲的に貢献する姿勢」、「新たな価値・スキルの創出」などの理念が必要かつ重要となってきます。それらを実現させるために、建学の精神である「塾的精神」のもと、付属高等学校においては「自走する生徒」を、付属中学校においては「K点突破」をそれぞれスローガンに掲げ、「生徒が主役となる学校」づくりを推進し、新たな時代のリーダーとして貢献、活躍できる有為な人材を育成・輩出すべく、学校運営を行ってまいります。

Ⅱ. 事業計画

[九州国際大学]

Beyond

可能性をカタチに

個性の伸長と人格の完成を旨とし、専門知識を教授し、北九州の地域に立脚して、国際的視野を持った理論・実践両面に明るい人材を養成することを目的とします。

VUCA の時代下、地域教育・国際教育を柱として、ステークホルダー（受験生・在学生・保護者・地域社会・卒業生）にとって“魅力溢れる地域No.1 大学”としての Position を確立します。

1. 教育概要

本学は、「教育理念」を次のとおり定めており、地域社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。

<教育理念>

- (1) 本学は、建学の精神に掲げられた「塾的精神」に基づいた教育を実践する。塾的精神の要は、人格を介した信頼関係にあり、教員、学生、職員相互の信頼関係の土台の上に、一人ひとりを大きく育てる教育を行う。
- (2) 本学は、地域社会及び国際社会で信頼される品性高き人材の育成を目標とする。北九州に根ざし、多様な価値観が存在する国際社会に対する理解力を高め、地球の未来を見据えつつ、学ぶ姿勢を生涯貫く人材を育成する。
- (3) 本学は、基礎的能力を備え、理論・実践両面に明るい人材を育成する。社会を透視できる理論の学習と共に、演習・実習を積極的にを行い、人間社会と自然環境に共感し、能動的な働きかけができる人材の育成に力を注ぐ。

(1) 法学部 / 法律学科

法学部は、法律の専門的・体系的知識に基づく法的思考力を修得させることによって、組織や社会の課題に対して俯瞰して筋道を立てながら説得力のある解決策を導くことができる人材を育成します。特に、フィールドワークによる実習活動を通じて協働力と実践力を獲得させ、地域の公務・民間分野において実務を遂行できる人材、及び企業活動に法務と実践の両面から積極的に貢献できる企業法務のプロフェッショナルを養成するため、2つのコースを設置しています。さらに令和7年度より、幅広いスキルと資格、実践力を身につけ現場で真に活躍できる公務員を養成する「スーパー公務員養成プログラム」、AIの正しい使い方を学びながら法学に必要な論理的思考力を鍛えることができる「法とAIプログラム」を始動させ、社会の変化に対応しながら組織の中核として活躍できる人材を養成します。

[法律学科]

- ◆ リスクマネジメントコース – 警察官や消防士、行政職員などの公務員を目指す–
- ◆ キャリアコース – 企業法務と組織運営のスペシャリストを目指す–

(2) 現代ビジネス学部 / 地域経済学科・国際社会学科

現代ビジネス学部は、21世紀の社会を展望し、グローバル化の進む世界や地域のビジネス組織、すなわち企業、自治体、民間団体などで活躍できる豊かな教養と知識を有する人材を養成します。

現代ビジネス学部地域経済学科は、地域に関する諸問題を経済学的・経営学的な知見から分析し、解決に向けて問題解決のために真摯に取り組める人材を養成するため、5つのコースを設置しています。

[地域経済学科]

- ◆ 経済コース – 経済の知識をもとに地域貢献できる人材を育てる –
- ◆ 経営コース – ビジネスリーダーとして地域に貢献する人材を育てる –
- ◆ 地域づくりコース – 地域づくりのマネジメントに精通した人材を育てる –
- ◆ 観光ビジネスコース – 観光を切り口に地域貢献できる人材を育てる –
- ◆ スポーツマネジメントコース – スポーツを通して地域の発展に寄与する人材を育てる –

現代ビジネス学部国際社会学科は、国際社会科学・異文化理解に関する専門知識および国際教養を備え、必要に応じて外国語も駆使し、解決に向けて主体的に行動できる人材を養成するため、3つのコースを設置しています。

[国際社会学科]

- ◆ 英語コース – 国際理解に明るく、高度な英語力を備えた人材を育てる –
- ◆ ハングルコース – 韓国を理解し、日韓の橋渡しとなる人材を育てる –
- ◆ 国際コース – 現代の多言語・多文化社会で活躍する人材を育てる –

(3) 大学院 / 法学研究科

大学院修士課程は、研究者や高度専門職業人の養成を目的とした知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

(4) KIU アドバンスプログラム(始動から躍動へ)

2025年度に、現代社会のニーズに対応する多様な学びとして、「KIU アドバンスプログラム」を始動しました。本プログラムは、学修の目的をより明確にした履修パッケージです。各学部・学科のカリキュラムの履修と各プログラムの特徴的な取組みを組み合わせることで、目的に沿った効率的な学びを実現させ、環境トレンドと社会的要請を背景とした学びのニーズに応えます。目まぐるしく変化する地域のニーズに対応すべく、グローバルな視点とローカルな視点を併せ持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を発見・解決できる人材を養成するプログラムとなっています。

本プログラムは2年目の段階となり、正課授業と正課外活動(各種プログラム)が有機的に連動するフェーズを向かえます。

25年度
始動!

現代社会のニーズに対応する多様な学び

KIUアドバンスプログラム

Kyushu International University Advanced Program

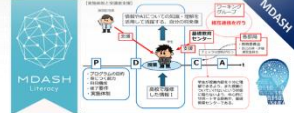
2学部3学科 11プログラム

▼KIUアドバンスプログラムとは
学生の目的をより明確にした履修パッケージです。各学部・学科のカリキュラムの
厚みとプログラムの特徴的な取組みを組み合わせることで、目的に沿った効率的な
学びを実現させ、職場トレンドと社会的要請を背景とした学びのニーズに応えます。
目まぐるしく変化する地域のニーズに対応すべく、グローバルな視点とローカルな
視点を併せ持ち、国際社会や地域社会が抱える課題を発見、解決できる人材を養成
するプログラムとなっています。

共通教育
Common Education

数理・データサイエンス・AI教育プログラム

PCをもちっと使いこなしたい! AIやデータサイエンスって何? ...データ駆動型社会に必要な知識・スキルを基礎から学びます。
本学のAI学びが強化されます! 本教育プログラムは中核年度文部科学省「数値データサイエンス教育プログラム」認定制度において認定されたプログラムです。
基礎的コミュニケーションにおいて、日常の生活や仕事の中で、データを取りこみ活用することができることを目指し、データ駆動型社会で必要とされる知識とスキルを、
実践から学びます。当該科目の単位取得後は、修士課程の進学が可能です。さらに学びたい、スキルを習得したい人向けに、発展科目として「AIプログラミング基礎(必修)」
を単位取得予定です。情報リテラシーの基礎力を習得したあとは、各学部・学科での専門的学びを通じて活用できることを目指します。情報やAIについての知識・理解を活用し、
学生自身の将来を広げます。



法学部
Faculty of Law

スーパー公務員養成プログラム(法務学科)

ただの公務員ではなく「標準で高に活躍できる公務員」へ!
ジョネタリストの枠に収まらず様々な専門知識と行動力を通して高水準の職務を遂行できる「スーパー公務員」を育てる新プログラムです。幅広いスキルと資格を身につけて、
地域に必要とされる公務員人材を目指すことができます。



法とAIプログラム(法務学科)

「法とAI」を使いこなすスペシャリストになろう!
デジタル技術を活用して日常生活や仕事、社会的な分野での課題解決を図ることを目的としたプログラムです。法学の現代的な問題をAIに回答させ、インプット(入力)とアウトプット(結果)が正しいものになっているかどうかを確認することを通じて、AIの正しい使い方や学びながら、法学に必要な論理的思考力(論議を立てて考える)を鍛えます。



現代ビジネス学部
Faculty of Contemporary Business Studies

金融リテラシープログラム(地域経済学科 経済コース)

実生活で役立つ金融経済の知識とは?適切な状況判断と合理的な選択!
人生100年時代の到来し、成人年齢も引下げられました。これらを背景に、資産形成や契約トラブルの回避など「実生活で役立つ金融経済の知識」がますます求められています。このプログラムでは、ビジネスと社会生活の両面で役立つ金融経済の知識を学びます。そして状況に応じた適切な判断と、合理的な選択ができるようになることを目指します。



ビジネスリーダー養成プログラム(地域経済学科 経営コース)

千人の仲間と繋がる...、そんなリーダーシップを身に付けよう!
2年次から始まるコースに選ばれる人は、マーケティングやマネジメント、簿記・会計などに興味を持っています。その後、就職活動を進めながら、ビジネスの様々なシーンで活躍できるリーダーシップの重要性に思い至ります。このプログラムはそのようなニーズに対応したもので、各履修フィールドを通じて実践的リーダーシップを学びます。



エリアマネジメントプログラム(地域経済学科 地域づくりコース)

地域力を活かす...、そして高を動かすプロフェッショナルになる!
このプログラムの最大のポイントは、九州国際大学のあり方(地域)の地域力を活かすことにあります。行政や商店街、地域団体、さらには農林水産分野にいたる様々な分野でエキスパートと連携し、まちづくりを仕掛ける人材を養成します。調査分析から企画立案、社会への発信、そして実践...、目指すのは街を動かすプロフェッショナルです。



ツーリズム企画実践プログラム(地域経済学科 観光ビジネスコース)

楽しくていい、大賞でもいい、世界を回り回って仕事が出来たい!
観光の理解を深めながら観光実務を体験し、実践を軸に、調査、分析を身につける一方、観光の課題を解決するための方法を企業実務プログラムとして実行していきます。また、韓国釜山の東義大学が主催するサークルス「K Culture Program」に参画し、実務や観光に関する韓国文化を主に体験する海外実務もあります。



スポーツ指導者養成プログラム(地域経済学科 スポーツマネジメントコース)

指導者だけでなく、組織運営や経営のノウハウまでを身につけたい!
サークル活動に熱心な学生が多く在籍するスポーツマネジメントコース。学業との両立は容易ではありませんが、将来を見据え、フロンティア上の学びを求めている学生もいます。このプログラムでは、スポーツの指導から組織運営に至るまで、指導者に求められる知識とノウハウを身につけることを目指します。



Business English Program(国際社会学科 英語コース)

世界で通用するビジネス英語を、あなたの武器に!
ビジネス英語に加え漢語やリーダーシップスキルを学び、国際ビジネスで戦力として活躍できる力を養います。メールや報告書作成、プレゼンテーションのスキルを強化し、グローバルな場面での自信を持って対応できる実力です。さらに漢語の知識を活かしてリーダーシップを発揮し、自己のキャリアを加速させることを目指します。



グローバルキャリア形成プログラム(国際社会学科 国際コース)

多文化共生のための経験、そして世界へと飛びたい!
グローバル化が進む国際社会で求められる人材とは? このプログラムでは、多文化共生のための知識、実践への挑戦、さらには海外就職のための準備を目指します。様々な人々と協働して、新しい世界情勢へ柔軟に対応できる...、国際コースでは、そのような人材を「国際系キャリア人材」と位置づけ、新たな学びを開始します。



韓国文化・ビジネスプログラム(国際社会学科 ハングルコース)

仕事も遊びも韓国も...、ずっと韓国と関わっていきなさい!
ハングルコースに所属する学生の大半は、入学前から韓国の文化や伝統に興味・関心を持っています。このプログラムでは、コア必修授業のみならず専門的韓国語教育が一丸となって指導されます。そして、韓国の特徴と社会についてより深く学ぶと共に、各履修の交際機会を通じて、グローバルに活躍できる人材の育成を目指すものです。



2. 学生募集

本学では、少子化が進行する中においても安定的な学生確保を実現するため、ブランディング・プロモーション、オープンキャンパス、進学相談会、高等学校・日本語学校との連携強化等を柱とした学生募集施策を総合的に展開してまいります。

(1) 広報戦略

本学では、少子化が進行する社会環境の中においても安定的な学生確保を実現するため、ブランディング・プロモーションの強化、オープンキャンパスの充実、進学相談会への参画、高等学校・日本語学校との連携強化を柱とした学生募集施策を総合的に展開し母集団形成を図ります。ブランディング・プロモーションにあたっては、市場調査や志願者動向の分析結果に基づき明確なターゲット設定を行うとともに、競合校との差別化を意識した戦略的な情報発信を行います。本学の強みは、地域を学びのフィールドとした実践的な教育、少人数制による教職員との近い距離感、学生一人ひとりが主体的に成長できる学修環境にあります。北九州市・八幡東区との連携をはじめ、行政・企業・地域住民と協働した学びを通じて、学生は在学中から地域課題の解決に取り組み、地域と共に生き、地域に貢献する大学としての役割を実感していきます。これらの魅力を高校生および高等学校教員、保護者に分かりやすく伝えるため、従来の広報媒体に加え、InstagramやTikTok等のSNSを活用し、学生の日常や授業風景、キャンパスの雰囲気が伝わるリアルな情報発信を強化します。学生目線の動画や写真を通じて大学生

活を具体的にイメージできるコンテンツを継続的に発信し、親近感と共感の醸成を図ります。

あわせて、公式 Web サイトにおける SEO 対策を強化し、本学の教育内容や学修環境に関する情報が適切に検索・閲覧される環境を整備することで、本学への理解促進と認知度向上を図ります。さらに、Web サイト上で学校見学会やオープンキャンパスへの導線を明確に設け、来学機会の創出につなげます。

(2) オープンキャンパスの実施

2026 年度は、年 6 回の体験型オープンキャンパスを実施し、参加者数の増加と出願への歩留まり向上を図ります。イベントコンセプトを設定した上で、学部・学科の体験型企画や学生・教職員との対話を重視したプログラムを展開し、本学の教育内容や学修環境を具体的に理解できる機会を提供します。

体験型企画やワークショップ形式を通じて、参加者が主体的に学びに触れ、「大学を知る」段階から「理解する」段階へと意識が深まる構成とすることで、満足度の向上と志望度の醸成を図ります。これにより、参加後の出願意欲を高め、出願率向上につなげます。

また、来学が難しい生徒に向けて Web オープンキャンパスを実施し、時間や地域に制約のある受験層に対しても、本学の特色や学びを 24 時間発信します。体験型オープンキャンパスと併用することで、志願者層の拡大と継続的な接点づくりを進めます。

さらに、県外からの参加促進を目的として旅費補助制度の強化を継続し、広域からの参加者増加を図ります。これらの取組を通じ、オープンキャンパスを学年進行に応じた入口施策として体系的に位置付け、安定的な学生募集につなげていきます。

(3) 進学説明会の実施

本学では、九州全域及び山口県の高等学校教員を対象とした本学単独の進学説明会を北九州会場並びに福岡会場で実施し、高等学校教員への的確な情報提供を通じて、本学への理解を一層深めるとともに、安定的な志願者の確保を図ります。

北九州会場となる本学では、学内施設を活用しながら、教育内容や学生の学修状況、新たな教育的取組等について丁寧の説明します。これにより、生徒一人ひとりの進路選択を支援するうえで、教員が進学指導に直接活用できる具体的かつ実践的な情報を提供します。特に、本学の特色や教育の強みを深く理解していただくことを重視し、生徒から第一志望校として選択される大学となることを目指した関係構築を図ります。

また、在学生との座談形式によるフリートークを実施し、学生の率直な声を通じて、学びの成果や大学生活の実際をより具体的にイメージできる機会を創出します。

福岡会場においては、説明内容を要点に絞り、広域から参加する教員に対して、短時間でも本学の特徴や入試制度を的確に理解できる、効率的で分かりやすい情報提供を行います。

また、各地域や高等学校内で実施される進学相談会は、高校生への直接訴求が可能な重要な広報活動の一つであることから、本学ではその実施内容や参加形態について、より高い効果が得られるよう戦略的に取り組みます。あわせて、通信制高等学校への訪問やガイダンスを強化し、多様化する進学ニーズに対応します。これらの取組については、実施方法や参加形態の工夫・改善を継続的に行い、より効果的な進学説明会の実施を目指します。

(4) 高校訪問

本学では、計画的かつ継続的な高等学校訪問を実施し、教育現場との信頼関係構築を重視した学生募集活動を推進します。訪問にあたっては、本学の教育理念や学部・学科の特色、入試制度、在学生の学修状況、大学生生活の様子、就職実績や卒業後の進路などについて、最新かつ正確な情報を定期的に提供します。

これにより、高等学校教員の本学理解を一層深めるとともに、進路指導における信頼性の向上を図ります。あわせて、オープンキャンパスや学校見学会への参加促進、受験意欲の喚起につなげます。

さらに、訪問専用のリーフレットやチラシを作成し、学生の活躍事例や学びの特色を数字や具体例を交えて紹介することで、本学の魅力をより具体的に高等学校現場へ伝えていきます。

(5) 日本語学校訪問

コロナ禍の影響緩和により留学生の来日が回復傾向にあることを踏まえ、日本語学校への訪問活動を強化します。指定校および本学在籍学生の出身校を中心に計画的な訪問を行い、本学の教育内容や入試制度について丁寧な情報提供を行います。

併せて、留学生向けリーフレットの作成、新たなガイダンスや媒体の活用、独自の大学見学会の実施、新規日本語学校の開拓などにも注力します。これらの取組を通じて教員との信頼関係を構築し、オープンキャンパス参加者および受験者数の増加につなげます。

(6) 多様化する入試制度による受験機会の拡充

本学では、受験生一人ひとりの学習成果や学修意欲を多面的に評価するため、入試制度の多様化を推進します。競合校において外部英語検定を活用する動きが進んでいることを踏まえ、2027年度入試より外部英語検定の活用を導入します。これにより、日頃の英語学習の成果を適切に評価するとともに、一定の学力水準を担保し、英語学習への意欲向上や入学後の学修基盤の強化につなげます。

総合型選抜においては、「事前学習型小論文試験」および「探究学習評価型プレゼンテーション試験」を継続して実施します。これらの選抜を通じて、本学の教育内容を理解したうえで主体的に学ぶ意欲をもつ受験生を評価し、年内入試における志願者の安定的な確保とともに、本学で学びたいという明確な意思をもった生徒の確保を図ります。

また、一般選抜（前期）では、昨年度より拡充している学外試験会場を引き続き実施し、受験生の経済的負担の軽減と受験機会の増加を図ります。地理的条件に左右されにくい受験環境を整備することで、より多くの受験生が本学を志望しやすい体制を構築します。

(7) 高大連携事業

本学では、文部科学省が進める高大接続改革や地域社会の課題を踏まえ、高等学校との連携を強化しています。

地元で学び、地元企業で活躍する人材育成を目指し、以下の取組を実施しています。

① 出張講義

高等学校からの依頼に基づき、本学教員が高等学校を訪問し、高校生の関心が高いテーマで講義を行います。

高校生の探究心を刺激し、高等教育への興味・関心を高めます。

② 高大連携（広域連携）

高等学校の要望に応じて、本学独自の体験型プログラムや出張講義を定期的を実施します。現在 9 校と連携協定を締結し、協働した教育活動を展開しています。

連 携 校		
柳川高等学校	博多高等学校	下関国際高等学校
慶成高等学校	高稜高等学校	開新高等学校
秀岳館高等学校	対馬高等学校	別府溝部学園高等学校

③ 教育連携（地域連携）

北九州市内の高等学校 10 校と高大教育連携協定を締結し、地域への定着と活性化を目的とした教育プログラムを実施しています。

連 携 校		
八幡中央高等学校	若松高等学校	北九州市立高等学校
北九州高等学校	小倉西高等学校	中間高等学校
小倉南高等学校	ひびき高等学校	門司大翔館高等学校
八幡南高等学校		

3. 教育・研究

教育については、「教学マネジメント指針」で掲げられている「学修者本位の教育の実現」に向け、教育の質保証に関わる基盤と体制を安定的かつ継続的に推進できる環境を組織的・体系的に整えます。学修者目線に立ち、様々な取り組みに対する点検・評価を実施しながら不断の改善に努め、大学の個性や特色を生かした教学マネジメントを構築します。

研究については、研究力強化を目的に、研究活動を取り巻く環境の編制と充実を図り、研究者および大学の長を生かした学術的な発信・発展を目指します。また、価値ある豊かな研究の土壌を醸成していくため、外部資金の一層の獲得を推進します。

(1) 学士課程教育の体系化及び教学マネジメント体制を支える基盤の確立

学生が4年間で学ぶ道のを俯瞰できるよう学士課程教育の体系化に向けて継続的に取り組んでいきます。

<重点項目>

- ① 教育の質保証と学生本位の教育（何を学び、身に付けることができたのか）の実現に向けた取組強化（単位実質化、シラバス改革、成績評価厳格化、学修成果の可視化）。
- ② エビデンスの基づく教学マネジメントを支えるための IR 体制のさらなる拡充。さらには教学改善の PDCA を全学的に遂行。
- ③ ICT 教育の拡充(九州国際大学・数理・データサイエンス・AI 教育プログラム)と BYOD に対応した講義の拡大と教育環境の整備。
- ④ 地域参加や海外体験などを通し社会貢献のなかで、実践的力量を養う科目体系やプログラムの充実。

(2) 初年次教育

学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを大きく育てる教育に取り組みます。

<重点項目>

- ① 「入門セミナー1・2（必修科目）」、「アカデミックスキル（思考）・（表現）・（情報リテラシーと調査）（準必修科目）」の配置。
- ② 新入生研修（FM：フレッシュャーズ・ミーティング）の実施
- ③ 体験型学習（フィールドワーク）の実施
- ④ 目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）の実施

(3) PROGテスト(外部評価試験)の実施

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル(汎用的な技能)」を測定するため、PROGテストを全学部で導入・実施しています。テスト結果は、学生の持つジェネリックスキルの特性を踏まえたきめ細やかな指導に役立てるとともに、本学の教育効果の検証にも活用していきます。

また、ディプロマサプリメントの項目として位置づけ、学生の学修成果を客観的に示す仕組みを整備します。

(4) 実践型教育の推進

実社会との協働による実践型教育を推進し、社会人に不可欠なソーシャルスキルの習得と、学びへのモチベーション向上を図ります。学生が能動的に学ぶための学習法としてアクティブ・ラーニングを積極的に推進し、教育内容のさらなる充実を図ります。

さらに、地域連携活動や地域課題の解決に取り組む社会実習、海外での体験的な学習機会を提供する海外社会実習、海外提携校での語学実習や外国事情研修、国内外でのボランティア活動、企業実習など、多様な教育プログラムを開講します。

(5) 大学コンソーシアム関門事業への参画

大学コンソーシアム関門に参画し、教養教育を共同で実施しています。当該コンソーシアムでは、関門地域（北九州市及び下関市）の高等教育機関が相互に連携・協力し、多様な講義科目講座を提供しており、本学教員の講義科目を講座として提供します。

また、大学間で締結している単位互換協定に基づき、当該コンソーシアムにおいて学生が履修・修得した単位については、本学の単位として認定しています。

(6) 学長裁量経費支援

教学課題の解決や文部科学省の高等教育施策の動向を踏まえた課題等に関する全学的な取組みを支援する目的で学長裁量経費を設けています。地域貢献・国際貢献につながる学生自らの自主的な活動、複数学部・学科等による横断的な取組みや、各学部・学科等における教育改革・教育改善に向けた意欲的な取組で全学的な波及効果が期待できる取組みを選定し、支援します。

(7) 研究活動

研究力強化を目的に、研究活動を取り巻く環境の編制と充実を図り、研究者および大学の特長を生かした学術的な発信・発展を目指します。価値ある豊かな研究の土壌を醸成していくため、外部資金の一層の獲得を目指します。

<重点項目>

① 研究支援体制の強化

- ・ 研究支援組織の見直し
- ・ 研究活動推進に向けた満足度調査実施

② コンプライアンス教育の推進

- ・ 研究倫理教育 e-ラーニング・研修会の実施（参加率 100%）
- ・ 研究費不正使用防止等の啓発活動の実施

③ 研究成果の情報発信の強化

- ・ HP 等による研究成果の公表促進

(8) リポジトリ情報の積極発信

本学教員の研究成果を広く紹介し、関心を高めてもらうため、学習成果リポジトリで公開している論文等の解説やインタビュー記事を作成し、ホームページや機関誌に掲載いたします。

(9) FD・SD 研修

学校法人九州国際大学職員研修規程に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）研修等を実施しています。ICT 教育拡充や AI の正しい利用などへの教職員の対応力向上のための研修を計画しています。

また、事務職員の階層別研修など、全教職員を対象とした SD 研修を定期的に展開していきます。

4. 学修支援

学生の出席（出校）率の向上、並びに大学キャンパスでの滞在時間を増やし、大学生活の満足度を向上させるため、学修支援、キャリア開発、教育支援など、あらゆる角度においてエビデンスに基づく行動計画を策定し実践します。

「学生の可能性を広げる」教育機能の充実を図り、特徴ある能力を持つ学生を育成し彼らのキャリア開発を強力に支援する大学、また、学生のキャリア開発の選択肢が広く持てる特色ある大学を目指します。

(1) 学生ポートフォリオによる学修成果把握

学生の主体的な学修活動および自己管理を支援するため、学生ポートフォリオシステム（Assessor：アセスメンター）を運用しています。

また、学生の学習達成度を総合的に示す「ディプロマサプリメント（卒業時達成度の記録及

び自己成長の推移)」については、本格的な運用開始に向けて、記載項目や評価内容の充実化、記録方法の改善などを継続的に検討し、より質の高いツールとして整備していきます。

(2) 基礎教育センター教育支援

従来の「英語・国語・数学」を中心とした基礎学力向上型の支援から発展し、「学生の可能性を広げる」教育機能の充実に向けた取組みを実施します。単なる補習的支援にとどまらず、語学力・資格取得・実践的能力の向上を通じて、学生の将来選択肢の拡大と就職競争力の強化を目指します。

このほか、各種講座の新規開拓や教育支援体制を強化することにより、就業時に実践的に役立つ取組を推進いたします。

<重点項目>

- ① 会話重視の語学課外講座（英語・中国語・韓国語）
- ② 資格取得を目的とした基礎力向上講座（宅地建物取引士、ファイナンシャルプランナー、統計、プレゼンテーション）
- ③ 簿記講座および AI コースの新規開拓
- ④ 教育支援体制の強化
 - a) 入学前教育・初年次教育の実施（ドリル、スクーリング）
 - b) プレイメントテストの実施
 - c) SA によるピア・ラーニング、学生生活相談支援
 - d) ボランティア活動の単位化（正課登録）
 - e) 課外講座担当部門の整理・統合（教育センター化）
 - f) 3 大学基礎教育センターとの学術交流
 - g) 課外講座実施部門の統合による教育機能の一元化と役割の再定義

※) 特に③AI コースについては、就職先企業からも実践的に活用できるデジタルスキルの習得を求める声が高く、北九州市の DX 推進方針にも合致する取組み。

(3) 図書館サービスの向上

書庫の狭隘化対策のため、利用が少ない 3 階閲覧席の一部を撤去し、開架書架を増設する予定です。併せて、図書の一部電子化について試行的導入を実施することで改善を図ります。

このほか、既存の図書館設備について活用状況を調査し、利用の少ないものについては幅広い観点から、よりニーズの高いものに用途変更しサービスの充実を図ります。

5. 学生支援

学生一人ひとりが大学生活を有意義に送り、心身ともに健康で充実したキャンパスライフを送れるよう、多角的な支援を展開します。サークル活動、アルバイト、ボランティア、大学祭等の課外活動を通して、他者と協働し、社会とつながる経験を積み重ねることで、社会の一員としての基盤形成を支援します。

また、学生が学生生活全般において自ら考え行動する自律性と責任感を身につけ、「ガクチカ（学生時代に力を入れたこと）」の形成につながるよう、心身両面から学生生活を支援しま

す。あわせて、中途退学防止を重要課題と位置づけ、現状分析を踏まえつつ、学生の主体性やモチベーションを醸成し、学生の状況やタイプに応じたフォロー体制の構築に取り組みます。

(1) 課外活動の活性化

学生の自主性および協働力の育成を目的として、課外活動への参加促進と活動環境の整備を行います。また、四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）と連携し、課外活動のさらなる活性化に向けた取組を実施します。

<重点項目>

- ① 新入生オリエンテーションでのサークル勧誘（目標：サークル加入率40%）
- ② 自治会主催サークル紹介ガイダンス（目標：年1回以上実施、参加学生20～30名）
- ③ 新規サークル設立支援（目標：相談件数の把握、年1団体以上の認可）
- ④ 体育系サークル顧問・指導者研修（目標：年1回実施）
- ⑤ 課外活動の成果発信・広報の充実（目標：年15件以上実施、学内広報（Web、掲示等）を活用し、年間を通じて継続的に情報発信する）

(2) 学生自治会(四協団体)運営支援

四協団体（学生自治会・体育会本部・文化会総務委員会・大学祭実行委員会）の活性化および安定的な運営を支援し、健全で活気ある学園づくりを目指します。

学生主体の自治活動を尊重しつつ、教職員がイベント運営、事務手続、会計処理等について助言・支援を行い、自治運営力の向上を図ります。

<重点項目>

- ① 大学祭（橘祭）の来場者集客に向けた企画・運営支援（目標：来場者数 前年比維持～＋5%）
- ② 四協団体との管理運営に関する定期会合（目標：年6回実施、出席率60%以上）
- ③ 体育会の体制整備（目標：各サークルより委員を選出し、常任委員会および主将・主務会議を定期開催）
- ④ 学生自治会連絡協議会の開催（目標：年2回実施（春学期：1回、秋学期：1回、計2回）参加団体率100%）

(3) 学生との交流支援とメンタルヘルス支援

やわらかカフェの認知向上および利用促進に努めるとともに、学生同士の交流の活発化やメンタルヘルス支援を目的として、保健室およびカウンセラーと連携し、各種企画を実施します。相談や交流の場としての機能を充実させることで、学生同士の交流促進と心の健康保持を図ります。

<重点項目>

- ① やわらかカフェの利用促進（目標：利用者数を把握し、前年度との比較により利用状況を検証）

- ② 交流イベントの実施（目標：学生同士の交流を目的としたイベントを年10回以上実施し、延べ参加者80名以上を目指す。）
- ③ 長期休暇中の特別相談会の実施（目標：夏季：3回、春季：3回実施。長期休暇期間中（夏季・春季）に相談会を実施し、学生の不安や悩みに対応する）

(4) 学生の意識調査及び学生満足度調査アンケート等の実施

学生満足度の向上を目的として、各種調査やアンケートを通じて学生のニーズや意見を聴取します。得られた結果をもとに、学生支援施策の改善に反映させ、より効果的な支援体制の構築を図ります。

<重点項目>

- ① 学生自治会主催の連絡協議会での意見交換（目標：年2回実施）
- ② 四協学生を中心とした学生団体と大学執行部との学長懇談会（目標：年1回実施）
- ③ 学生意識・満足度アンケート（目標：年1回実施、回答率70%以上）
- ④ 調査結果の情報共有（目標：学内HPまたは資料での公表）

(5) 保護者懇談会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振などの課題解消を目的として相談会を実施します。これらの相談会に加え、就職に関する講演会など保護者の関心が高い内容のイベントを開催することで、保護者に必要な情報を提供していきます。

<重点項目>

- ① 保護者後援会総会および保護者懇談会の開催及び保護者後援会予算収支の均衡を図る。（目標：保護者後援会総会および保護者懇談会の開催 年1回、6月実施）

(6) 学生の憩いの場の提供

学生満足度の向上およびキャンパス滞在時間の充実を目的に、学生が安心して過ごせる居場所づくりを推進します。

<重点項目>

- ① 学生食堂の利用促進（目標：保護者後援会による補助支援を継続。利用者アンケートを実施し、利用状況・満足度を把握し、運営者と共有することで改善を図る。（7月実施））
- ② 遊休スペースの活用（目標：喫煙スペース・分煙環境の整備。年1か所以上整備し、学生の憩いの場として提供する。）

(7) 障害のある学生に対する修学支援の実施

障害を抱える学生が安心して学修に取り組めるよう、入学前から在学中に至るまで、合理的配慮に基づく修学支援を体系的に実施します。

教職員、保健室、やわらかカフェカウンセラー等と連携し、大学全体で支援体制の共有と質の向上を図ります。

<重点項目>

- ① 教職員向け支援体制に関する理解啓発研修の実施（目標：年1回以上実施、参加率50%以上）
- ② 入学者選抜に関する事前相談対応（目標：相談案件への対応率100%、対応記録作成率100%）
- ③ 合理的配慮運用制度の整備（目標：相談受付から支援実施までの標準運用を整備し、年度内に運用開始）
- ④ オンライン受講支援体制整備（目標：オンライン受講可能科目に関する教員アンケートを実施し、一覧を学生に提示。履修登録時に選択可能な環境を整備）

6. 地域連携・社会連携

地域連携センターでは、高等教育を取り巻く急激な環境変化に対応し、文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業タイプ3」の方針に呼応した取組を重点的に推進します。本学の強みを活かす「地域連携型」と、多機関が連帯する「プラットフォーム型」の双方の取組を促進し、国の方針を具現化する体制整備を図ります。産官学の共創を深化させ、地域課題の解決と人材育成を通じて、地域社会の発展に寄与するとともに、本学の持続可能な存立基盤と社会的価値を確立いたします。

(1) 大学等連携プラットフォーム北九州(仮称)への参画

北九州市内に立地する大学、大学院、短期大学、高等専門学校が相互に連携・協力して活動するとともに、自治体、産業界との連携を通じて、北九州市の高等教育の振興と地域社会の活性化及び課題解決に寄与することを目的とした地域プラットフォームの形成を目指しています。

現在、北九州市内の私立大学及び北九州市との間で準備会を重ねており、令和8年度に「大学等連携プラットフォーム北九州(仮称)」を設立する予定としています。

<プラットフォーム事業概要>

- ① 北九州市への学生集積に関する事業
- ② 北九州市への就職の推進に関する事業
- ③ 学生の地域活動に関する事業
- ④ 北九州市の生涯学習や地域人材育成に関する事業
- ⑤ 大学、自治体、産業界との連携の推進に関する事業
- ⑥ 大学・短期大学間相互の単位互換に関する事業
- ⑦ その他目的を達成するために必要な事業

(2) 地域連携推進費助成事業

地域連携センターでは、本学の人的・知的資産および学生の柔軟な発想を地域社会に還元し、諸団体との共創による地域課題の解決を目指しています。本年度は、私立大学等改革総

合支援事業タイプ3の要件を見据えた事業展開を主軸に据え、採択事業10件を活動指標として取り組みます。

(3) 九州国際大学「市民講座・市民相談」の開催

地域連携センターと九州国際大学同窓会「橘会」との共催により、「市民講座・市民相談」を継続開催いたします。本事業は、日常生活における法的諸課題の講義や相談窓口を通じて、地域住民へ専門的なリーガルサービスを還元するものです。自営業者向け講座を拡充するとともに、学生の実践教育（リーガル・クリニック等）の場としても位置づけます。令和8年度は、年間20回（前後期各10回・隔週土曜）の実施を予定しており、地域からの厚い信頼に応えつつ、「新規受講率10%以上・継続受講率30%以上」を目標に掲げます。併せて、講座全体での「理解度75%・満足度80%以上」をアウトカム指標として設定し、質の高い地域貢献を追求してまいります。

(4) 北九州市民カレッジの共同開催

生涯学習の振興に向け、北九州市民カレッジとの連携を強化します。具体的には、令和7年度の新規事業として実施した本学独自の「1DAY講座」を北九州市民カレッジへ戦略的に組み込み、自治体との相互広報による集客力の最大化を図ります。また、プラットフォーム形成の核心的取組として、他大学との「共同リレー講座」（年間10講座：前後期各5回）を主導します。本学はPF内の部会長として、大学間のリソース集約と調整を担い、広域的な地域貢献と次世代人材の育成を推進することで、国が求める改革指標を確実に達成しつつ、地域社会の持続的成長を支える基盤を構築いたします。

(5) 地域連携学生ボランティア窓口

令和7年度に発足した学生プロジェクトチーム「サラクル」では、自治体や産業界との連携協定を基盤とした地域課題解決に取り組んでいます。令和8年度は、「ランドセルランド」や「拝命社長秘書!」、「スケッター」、「農業支援事業」や「地域振興事業」等、5事業以上のプロジェクトを深化させつつ、学生が主体的に地域の課題を掘り下げ、解決の糸口を自ら導き出せるよう、センターとして事業支援体制を強化いたします。

(6) 地域との連携事業

地元自治体および企業との包括連携協定を基軸とし、地域に根ざした多角的な実践型事業を推進します。八幡東区役所とは、自治体広報支援事業「カクハチ」や人材交流を目的とした「北九州学」の講義への参画を継続し、水巻町においては、コミュニティバスの実態調査や利用者アンケートの実施を通じた公共交通網の整備支援とともに、町特産品の認知度向上に向けたプロモーション活動を展開します。あわせて、八幡駅前開発株式会社との連携による「KEYAKI TERRACE YAHATA」例会への出席や「Yotteco Yahata」への事業参画を図ります。

令和8年度は、包括連携協定先機関との連携事業を年間4件以上実践し、大学のリソースを現場へ投入することで、地域コミュニティの持続的な活性化に寄与いたします。

(7) キャリア形成共同プログラム体制整備

私立大学等改革総合支援事業タイプ3（プラットフォーム型）が掲げる「キャリア形成共同プログラム」の実現に向け、産業界等との包括連携を軸に、他大学と連携した社会人向けリカレント教育の体制整備を推進します。特にセカンドキャリア構築を支援する講座展開に注力し、

共同プログラムの実装を通じて、地域における生涯学習の基盤整備と多様な人材の再活躍に寄与いたします。

7. 国際交流

インバウンド・アウトバウンドの両留学生を支援する仕組みを充実・強化し、特徴ある能力を持つ留学生を育成し、そのキャリア開発に貢献していきます。ここだけの“国際大学”、ここだけの”特徴的な学び“を実践し、留学生の就職実績でキラリと光る大学を目指します。

(1) 外国人留学生への支援プログラム強化

協定校からの交換留学生など、外国人留学生が少しでも早く日本の生活に馴染み、日本語能力等が向上できるよう支援プログラムを強化し、以下の取組みを展開いたします。

<重点項目>

- ① N1 日本語課外講座の継続開講（継続）
- ② Buddy 制度・メントリー制度による外国人留学生の支援（継続）
- ③ 日本語スピーチコンテスト実施（継続）
- ④ 就活にむけた準備支援の強化
- ⑤ 授業料減免制度の改善

上記の内、①～③は定着していますが、日本での就職を希望する外国人留学生が 80%程度存在する現状に対して就職を意識した支援に課題が残ります。日本語課外講座も日本語能力試験 N1/N2 レベルを目標としていたものを、N1 レベルを目指すように変更しましたが、受講生はまだ 10 程度です。改めて外国人留学生の 3 年生までに全員 日本語能力試験 N1 合格を目指します。

授業料減免制度の更新基準等も見直し、留学生の意識を高め日本の就職活動によりスムーズに参入できる基礎をつくります。

(2) 日本人留学生への支援強化（継続）

外国の大学との国際交流を推進し、意欲ある日本人学生の海外留学を支援します。海外の諸大学と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開します。

<重点項目>

- ① 交換留学制度：協定校（中国・韓国・台湾・インドネシア）への留学（半年又は 1 年間）
- ② 認定留学制度：海外の大学に留学（半年又は 1 年間）
- ③ 海外社会実習：主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- ④ 海外語学実習：長期休暇を利用した語学留学（カナダ・フィリピン・アメリカ・イギリス・台湾・韓国）
- ⑤ ピア・ラーニングを意識した留学報告会の実施
- ⑥ 欧米などの協定校増加に向けた取組みの推進
- ⑦ ダブルディグリー・プログラムの実現（新規）

上記の内、②・③について、令和7年度入学生から選抜による優秀な学生への学費免除プログラムが適用され、その具体的な適用は令和8年度からとなります。③について、昨年度実施した課外講座（エアラインスクール）を海外社会実習の一部として正課授業化し開講予定です。約15%の学生が希望する航空業界への可能性を広げる本学として初の試みになります。

全国で20-30名程度が選出される韓国国費留学資格を6期連続獲得、また韓国の名門・漢陽大学との交換留学協定と交換留学の継続的な実施など、韓国について十分な結果がでていますが、留学先として根強い人気を持つ欧米大学との交換留学協定がありません。これを実現するための本学における英語授業の実現と同時に、よりリーズナブルな金額で留学が可能な英語圏としてフィリピンの大学との交換留学協定に注目しています。⑥の一環としてこの両方を検討します。

また、⑦について、実績ある韓国でより魅力的な大学を目指すため、本学初のダブルディグリー実現にむけた活動を昨年度に続き継続し、本年度はその目途を得たいと考えています。

(3) 学生の英語力向上（継続）

「大学生活について（学生配布冊子）」で示されている「TOEIC 600点程度の英語力を必要とする」ことについては、国際社会学科をはじめとして、全学部でTOEICは就職の可能性や入社後のキャリア向上に重要な指標となっています。TSMC社の熊本進出を契機に福岡県下の各大学でもTOEIC受験を正課授業化する動きが加速しています。外部会場のみでなく、学生にいつでもどこでもTOEICを受験でき英語力向上に資するため、TOEICオンラインテスト受験促進を支援します。

(4) 選抜学生に対する特別学修プログラム(継続)

国際的視野を持った人材を養成するため、海外実習を履修する学生の中から一定の要件を付して優秀な学生を選抜し、海外留学を促進するプログラムを展開します。大企業就職への意識した特別学修プログラムの実現に向けて、各種制度を整備していく予定です。

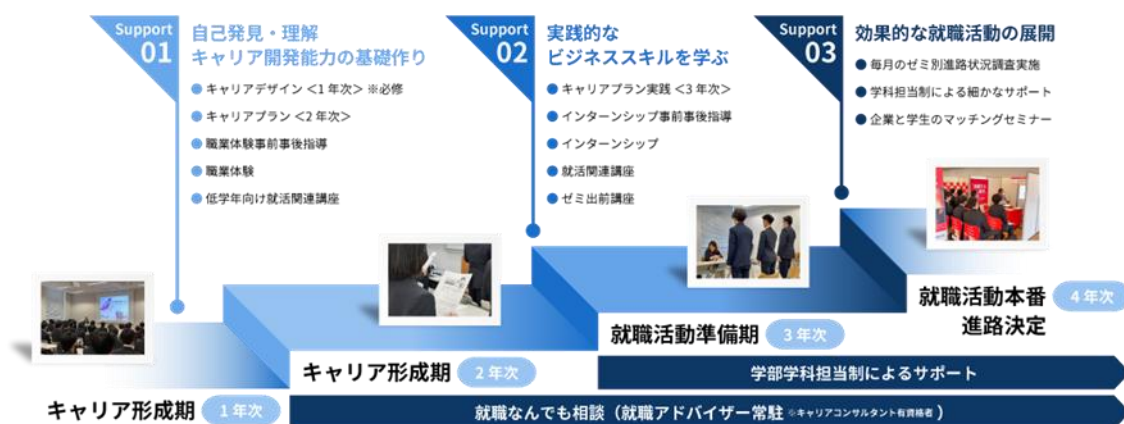
8. 就職支援

文部科学省の“学生支援推進プログラム”にも採択された、独自のキャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE（Kyushu International University Support Program In Career Education）」を継続的にアップデートし、学生の社会的・職業的自立を支援してまいります。本プログラムでは、社会人基礎力・人間力・就職力を養うキャリア教育と、自己理解・自己開発を促すキャリア支援を一体的に進めていますが、学生の多様化や変化する就職環境に対応すべく内容を充実させ、就職率と就職の質向上を目指して取り組んでまいります。

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU-SPICE(スパイス)」(継続)

KIU-SPICE(下図)は、各種キャリアサポートを統合し、体系的に展開するキャリア形成支援プログラムです。学生の多様化が進む中、大学教育の質的保証を図るとともに、学生の主体的な人格形成を通じた学士力の確保を目的とし、持続的かつ発展的に取り組んでいます。また、

年々変化する就職環境や地元企業への就職促進に対応するため、KIU-SPICE を時代に合わせてアップデートしてまいります。



(2) 正課授業によるキャリア支援(継続)

「KIU-SPICE」を基軸としながら、正課授業におけるキャリア教育科目を就職環境に即した内容へと発展させています。具体的には、「キャリアデザイン」「キャリアプラン」「キャリアプラン実践」などの正課授業において、業界研究や自己分析、履歴書作成、面接指導などを体系的に取り入れ、就職活動に直結する教育活動を実践しています。今後は、学生のニーズにあわせたオンラインでの就職支援イベント開催や動画コンテンツの充実に向けて取り組んでまいります。

(3) 職業体験・インターンシッププログラム(継続)

本学のプログラムは、入社後のミスマッチを防止することを目的とした職業体験型を原則としており、低学年のうちから職業観を醸成する役割を担っています。2年生は「職業体験」を通じて仕事や業務の内容を知ることが目的とし、3年生は「インターンシップ」を通じて仕事・業務・職種に対する自身の適性を見極めることを目的としています。また、これ

らのプログラムを実践的なキャリア科目へと段階的に繋げるため、今後も北九州商工会議所と連携し、受け入れ企業の拡充を進めてまいります。

(4) 保護者との連携による就職支援(継続)

教職員や保護者が本学の求人情報をリアルタイムで閲覧できる「就職支援 NAVI システム」を活用し、学生だけでなく、教職員や保護者にとっても有益な情報ツールとして提供しています。また、保護者向けに就職支援事業を紹介する動画を作成し、本学卒業生の就職状況、本学で実施している支援内容、「就職支援 NAVI システム」の紹介および使用方法など、本学の取り組みを広く周知してまいります。

(5) スーパー公務員養成プログラム

本プログラムは、単に公務員試験の合格を目指すだけでなく、AI、ICT、統計、語学などの知識を兼ね備えた「スーパー公務員」の育成を目的としています。

公務員試験対策として具体的には、2年次の正課授業として「公務員試験対策基礎Ⅰ」、「公務員試験対策基礎Ⅱ」、「公務員試験対策基礎演習」、3年生向け「公務員試験対策基礎Ⅲ」を開講します。本講座は法学部の学生だけでなく、現代ビジネス学部の希望者にも受講機会を提供します。

既に昨年度開設済の「公務員就職サポートセンター」、エクステンションセンターで継続実施の3年生向け課外講座である「総合コース」・「教養コース」とシステムチックに学生を支援し公務員合格者数の質量両面の強化充実・中計目標の達成を推進します。

(6) その他の主な計画

昨年度に新たな取り組みとして実施した活動については、令和8年度も継続して実施し、さらに改善してまいります。

① 公式 LINE アカウント

令和7年度開設後、Z世代の学生とよりスムーズで密なコミュニケーションを意図して運用しています。

② 就職・支援情報に関するホームページの刷新

学生や企業様に対して、より分かりやすく見やすい就職・支援情報ページへと刷新し、運用しています。

③ 保護者向け就活セミナー

就職活動が早期化する中、学生の相談役である保護者のみなさまに最新の就職活動の動向をご理解いただくことを目的として実施します。

④ 企業人事部門と学生の本音トークの会

就職活動に向けてフランクに交流できる企業と学生の対話の場を提供し、学生の就活早期準備に資することを目的として実施します。

⑤ 人気企業の新規開拓

大手企業様に、新たに本学の合同企業説明会「しごと研究フェア」に参加いただけるよう、また、オフィス見学ツアーを実施できるよう継続的に働きかけてまいります。

また、第四期中期経営計画にもとづき、以下施策を令和8年度から新たに実施します。

① マッチングセミナーを春学期から開始

従来、マッチングセミナーは秋学期に開催、春学期は企業単独説明会を開催していましたが、単独説明会への学生参加は就活早期化の影響から出席率がどの大学でも極めて悪化しています。そこで令和8年度は単独説明会を廃止し、4月からマッチングセミナーを開催し、内定取得の早期化を目指します。

② 保護者向け就職相談会の拡充

昨年度から開始した保護者相談会を継続実施すると同時に個別の保護者との相談会を設け、保護者との接点をより密にする予定です。

③ 企業・学生マッチングアプリ

Z世代の学生との第一歩の接点はデジタルです。公式LINE上に企業・学生のマッチングアプリを構築し、より効率的な企業と学生の出会いを支援していきます。新卒エージェント企業などでは珍しくない取組みですが、エージェントにはないより学生に寄り添った価値を提供いたします。

④ 生成AIの活用・実業務への適用

就活早期化が進む中、マッチングセミナー、しごと研究フェア、各種就活セミナー、キャリア科目などイベントが増え多忙を極める職員の環境下において、案内ビラの作成作業などを効率的・効果的に進めるため生成AIを実業務に適用します。

⑤ 実就職率の改善と留学生への就活支援

就職活動の遅れなどにより、正規職員としての就職が叶わない学生の早期就活開始への動機付け、また、日本での就職を希望しながらその理解が不十分なため就活に大きく出遅れる外国人留学生が課題です。これらの学生に対して、キャリア支援室Instagramへの企業・学生の出演など、より身近にキャリア支援室が感じられる工夫やキャリア科目への実務家教員の採用、国際センター事務室との連携による外国人留学生との接点強化に取組み、実就職率・外国人留学生の就職率の改善にフォーカスします。

9. 将来構想の検討・推進

(1)「Re:Desine KIU Project」始動

「教育改革×可視化×広報×教職員リソース最適化」の4本柱により本学の価値を再設計し、その結果を志願者増につなげる構想として「Re:Desine KIU Project」を始動します。

“教育改革が点在し、入学者確保につながる「接続線」がない”、“教育内容が可視化・発信されず認知につながっていない”などの現状の課題から、改革の具体的な方針を策定し、短期・中期・長期のフェーズにより示されたロードマップに従い、構想の実現を目指します。

(2) 看護学部看護学科設置準備

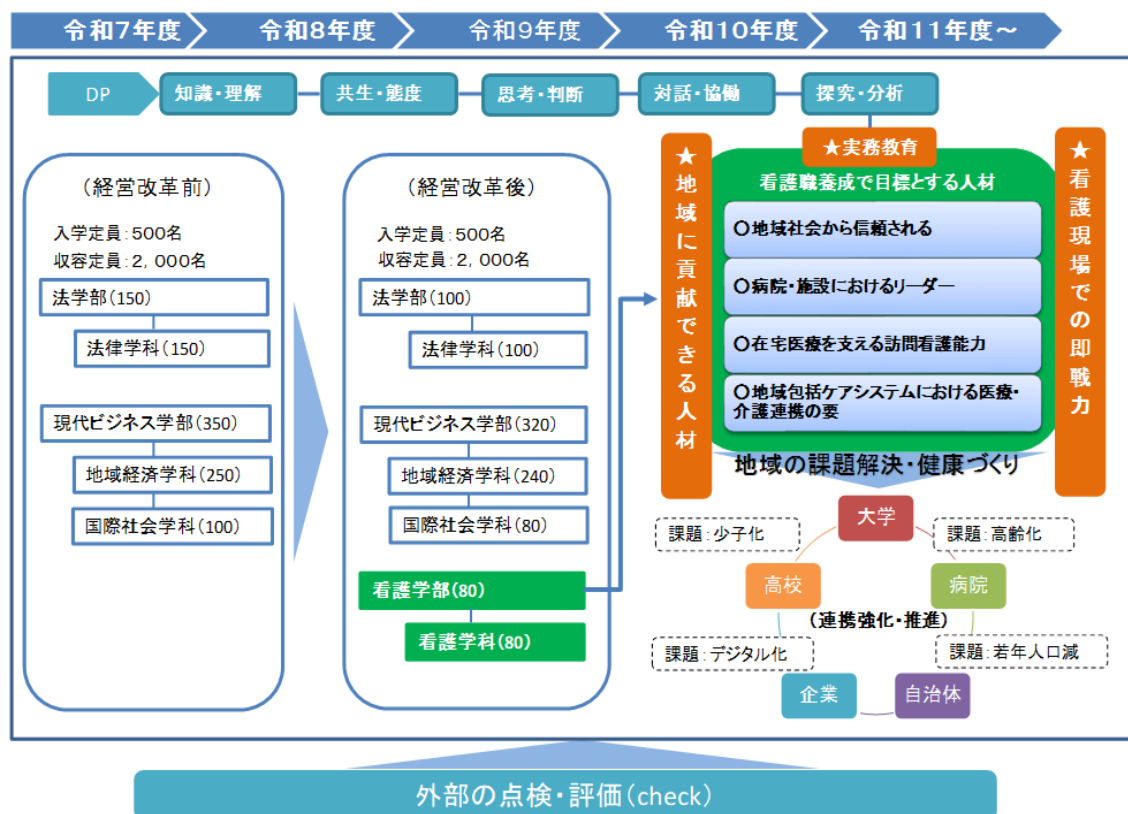
本学は北九州市八幡医師会と「看護学部設置・運営に関する包括連携協定書」を締結して、看護学部の設置準備を進めております。

看護学部看護学科は、看護の専門的体系的知識に基づく思考力を修得させるとともに、看護実践力を身に付け、地域社会及び国際社会において、個人及び集団を対象として、人が生まれ、

成長発達し、老いて、終焉するまでを看護の側面から関与できるプロフェッショナルを養成することを目的としています。

なお、本事業は、「令和7年度少子化時代を支える新たな私立大学等の経営改革支援【メニュー1：キラリと光る教育力】」に採択され、取組を推進することになっており、社会・地域等の将来ビジョンを見据え、自治体や産業界等と緊密に連携しつつ、社会・地域等の未来に不可欠な専門人材（グローバルな学生や社会人学生などを含む）の育成を担う事を目的とし、教育研究面の構造的な転換や資源の集中等による機能強化を図ること等により、未来を支える人材育成機能強化に向けた経営改革を行うものとなっています。

<計画概要（助成金申請 R7.8月現在）>



(3) 情報工学部情報工学科(仮称)設置準備

令和7年度 大学・高専機能強化支援事業（支援1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）の助成を受けて、情報工学部情報工学科（仮称）の設置準備を進めてまいります。本助成事業は、デジタル・グリーン等の成長分野の学部等の設置等に必要な資金を助成することにより、全国各地における当該成長分野の学部等の設置等を促進することを目的としています。

北九州市が策定する市の成長戦略では、それを支える都市（地域）活性化のしくみ構築が急務とされるなか、同市の将来の発展のため、都市計画やまちづくりに関するビックデータを含む様々なデータ情報を収集し、各種の分析と通じて都市（地域）の活性化に貢献できるDX人材の育成に取り組む計画としています。

<計画概要（助成金申請 R7.2 月現在）>

支援1 学部再編等による特定成長分野への転換等の構想について

令和7年度 九州国際大学



事業計画名 九州国際大学 情報工学部(仮称)設置計画					
基本情報					
改組予定年度	令和10年度	設置等組織名	情報工学部(仮称)	入学定員増数(合計数)	100名
所在地	福岡県北九州市	改組内容	学部の新設	入学定員減数(合計数)	0名



Beyond 可能性をカタチに

付属高等学校では、新たな教育目標として生徒の「自走」を掲げており、教師の指示待ちではなく自ら考えて行動できる生徒の育成を目指します。そこには必ず「伴走」が必要であり、教師が傍で見守りながら適切なアドバイスや励ましを行い、地域No.1の高等学校として生徒の可能性をカタチにします。

1. 教育概要

県内トップの受験者数を集める付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統は、北九州屈指の進学実績と課外活動でのスポーツ実績をもつ学校として文武両道を実践し、時代の変化に対応した質の高い教育を提供します。“九国付高”が掲げるコンセプトは、「知・徳・体」のバランスがとれた人材の育成です。「真の学力伸長は人間的成長なくしてはありえない」という今までの教育実践の中で培われてきた経験から、進学校としての実績に軸足をおきつつも、決して受験勉強一辺倒ではない全人教育を実践しています。

高校で過ごす3年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材となるべく必要な資質・能力の育成に努めてまいります。付属高等学校は、社会が求める必要な基礎力、生徒を取り巻く教育環境、受験システムの変化に伴うに対応するため、次のとおり学校のグランドデザインを策定して、時代の変化に合った教育を進めます。中期的な最重要目標は、「自己マネジメント能力」を備えた人材の育成と生徒一人ひとりの希望する進路を実現するための「高い知性と確かな学力」を研鑽できる「メタ認知的知識」と「メタ認知的活動」の2つの「メタ認知能力」の育成です。すなわち、自らの課題を解決するために、自らが持っている要素を十分に踏まえて計画し行動する人材を育成します。本校ではそれを「自走」と表現し、生徒が「自走」できるように、教師は「伴走」しながらアドバイスします。すべての教育において、「計画」→「行動」→「失敗」→「修正」の繰り返し、最適解を探しだす思考回路を構築することにより、資質・能力および「自己マネジメント能力」の育成に努めます。

グランドデザイン

- ① 「読解力」と「表現力」の育成に焦点を当てた、組織的な授業改善を行う。
- ② 「自己マネジメント」能力を身につけさせ、生徒の自走を促す。

自走の場

自ら考えて計画し行動する「自己マネジメント力」を備えた人材の育成
生徒の主体性や協調性を伸ばす教師集団の組織的「伴走」の実践

- 考え抜く力
探究型授業、読解力と表現力を伸ばす考査、課外授業、探究課題を設定
- チームで働く力
アクティブ・ラーニング、大学や企業との連携、卒業生による進路ガイダンス、グローバルスタディーズプログラム、文理選択 学部・学科オリエンテーション、探九祭
- 前に踏み出す力
探究を支える論理的思考の方法を学ぶ、探究活動・グループ発表の実施、海外留学、ポスターセッション、中間発表、論文ガイダンス、論文発表、志望理由書の作成

～総合的な探究の時間～

生徒達は自らテーマを設定し行動しながら、問題解決の手法とコミュニケーション能力の向上を果たし、各自の希望進路の実現に向けて成長しています。

2. 教育設計「クラス編成」

(1) 全日制普通科

クラス	概要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
S特進クラス	S特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。S特進クラスと難関クラスは九国付のツートップです。九州大学の現役合格を目指しています。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。 2年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリートクラス	推薦試験で入学する生徒を対象に2クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他クラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

(2) 通信制課程普通科

本校では、令和8年4月に単位制・通信制課程普通科を新規に開設しました。

コンセプトは、大学進学をサポートする単位制・通信制高校で、自宅から通学可能な教育施設で学べる通信制高校です。授業は前期・後期の2期生で実施し、設置するコースは以下の2つで福岡県と山口県からの通学可能な生徒を受け入れます。各コースともに、「スクーリング」「レポート提出」「テスト」の3条件を満たすことで単位修得を目指します。

また、中学校からの新入生はもちろん、他の高校からの転入・編入学も可能です。更には九州国際大学との連携を図りつつ、大学の授業や学園祭の見学等を行い、プレ体験としての大学生気分も味わうことで、モチベーションを維持しつつ進学意識を高めます。

① 「高卒認定コース」

週1日・土曜日のスクーリングに登校し、オンライン授業も取り入れながら、高校卒業認定に必要な授業を受講します。レポート作成や添削指導を受けながら学び直しも可能。それ以外の時間は、将来に向けた様々な活動にも使えます。

② 「大学受験コース」

高卒認定コースに加え、水・木・金曜日に大学受験に必要な授業を、個別時間割を編成しながら受講します。中学復習レベルから難関大学受験レベルまで、オンライン授業も活用して学びます。個別もしくは少人数授業で、希望進路の実現を目指します。

3. 学修支援

(1) 生徒の「自走」を促すための多様なアプローチ

本校では、近年多様化する大学入試に対応するために、様々な方面からの教育活動に取り組んでいます。各教科の授業では、ICT 機器も活用しながら、思考力・判断力・表現力を高

める授業を展開しています。また、主体性や多様性・協調性を育むための学校行事や教育プログラムを充実させるほか、各教科担当教員は、研修会や各種セミナーへ積極的に参加し、双方向授業の研究やアクティブ・ラーニングの実践を繰り返してきました。

授業以外では、英検等の各種検定試験への対策も個別指導の充実を図り、合格実績を高めています。

(2) 「選択制課外」の導入による新たな視点の入試対策

2021年度から始まった大学入試改革を視野に入れ「小論文・面接対策」、「資格取得指導」、「大学進学説明会」、「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。従来の全員必修の課外授業から、各自が自分の学習プランに応じて時間割を作成する選択制課外システムを導入し、「自走」する生徒の育成に取り組みます。

(3) 放課後・休日の学習環境の整備による「自走の場」の提供と教師の「伴走」

これまで、各クラスで自主的に居残り学習を推奨していたやり方を見直し、放課後に自習する生徒を一堂に集めることで集団的学習環境を作り出します。そこには専属のチューターを配置して、自習する生徒からの個別の質問に対応し、質の高い学習環境を維持します。これにより、私語や居眠りのないレベルの高い「自走する空間」が生み出されます。

また、それ以外の全教室を施錠・消灯することで、夜間の安全管理と節電効果を両立し、学園全体の経費削減にも寄与します。この取り組みは、教師の負担の軽減にもつながり、働き方改革への効果も期待できます。もちろん各クラスでの担任からの積極的な参加呼びかけも教師の「伴走」であり、結果的には生徒の成績向上による進路実現にもつながります。

(4) 豊富なキャリア教育

「学校選びは環境選び」とのスローガンを掲げ、難関大学をはじめ生徒が目標とする進学先の合格を目標に、よりハイレベルな進学を目指したくなる教育環境の提供を戦略的に打ち出しています。

① 校内進学説明会

1年次に文理選択説明会、2年次に教育内容説明会、3年次に入試内容説明会を行います。

② 進路ガイダンス

年間3回の出前授業に加え、国公立大学・私立大学の担当者を本校に招き、対面形式で実施するほか、遠方の大学についてもオンラインで同日に実施します。

③ 総合的な探究の時間における活動

探究活動を通じて、自ら問いを立てて解決する「問題解決能力」や「批判的思考力」を主体的に養います。地域課題や社会課題をテーマに調査、分析、対話を行うことで、将来の生き方を考え、社会で必要とされる情報収集力やコミュニケーション能力を身につけます。また、取り組んだ活動の成果が、大学の総合型選抜入試での合格につながるよう指導します。

④ 職業体験

幼児教育を志望する生徒を対象に、市内の保育園での職業体験を実施します。

⑤ 人体解剖見学会

北九州市内の病院にご協力いただき、医療看護系希望者のための人体解剖見学会を年 1 回実施します。

⑥ 大学見学会

生徒が目標とする進路を実現するため、学力向上への取り組みの一環として、1 年次に九州大学、関東・関西地域の名門大学の視察を行っています。本校卒業生の先輩達に大学のキャンパスを案内してもらい、難関大学を実際に自分の目で見ることにより、受験へのモチベーションを高めます。引率する教員の指導意識も高まり難関大学を目指す生徒の学力向上へつなげます。

⑦ 夏季・春季学習合宿、学習会

難関クラス、S 特進クラスを対象に学習合宿、国立大志望者を対象とした学習会を 3 月と 8 月に開催し、規則正しい生活のもとで、総復習や弱点克服に取り組みます。

(5) 地域とつながる教育活動の推進

生徒の「社会」と「学び」をつなぎ、将来へ広がる力を養うため、次の取り組みを行います。

- ① 校内献血運動
- ② ラブアースクリーン運動（地域清掃活動）
- ③ 総合的な探究の時間での企業訪問、取材活動
- ④ 部活動（インターアクト部、吹奏楽部、チアリーディング部）による地域行事への参加

(6) ICT 機器を活用した学習・進学サポート

各種 ICT 機器を活用して、いち早く目標を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立しており、放課後や長期休暇中の特別講座を実施し、一人ひとりの生徒の希望進路実現に向けての準備を万全にしています。例えば、スタディサプリを利用した復習や得意分野の先取り学習などは、生徒の「自走」を促す大切なツールとなっています。

また、悪天候時にはオンライン授業を活用して生徒・教職員の安心・安全を保障しながら、学習をサポートし、授業時間の確保との両立を果たすための教育体制を整えていきます。

また、教員に対する ICT 機器活用能力の育成、教科指導における活用、校務の情報化の推進及び ICT 指導力の向上のため、ICT 教育改革プロジェクト（略称 ICTEIP = ICT Education Innovation Project）を設置し、ICT 機器の活用推進に取り組んでいます。具体的には、教職員オンライン研修システム「Find! アクティブラーナー」を導入し、各教員が必要に応じていつでも関連する研修動画を視聴できる環境を整備しています。

また、令和 6 年度から、「FCE プロンプトゲート」を試行し、生成 AI の活用による校務の効率化や業務削減を目指しており、働き方改革にも前向きな取り組みを進めます。

(7) グローバル教育と留学制度

グローバル化する社会の動きに合わせて世界を知り、異文化を学ぶため、英会話の授業に加えて、姉妹校・友好校との国際交流や海外留学・研修に挑戦する機会を設けています。夏休みには韓国、春休みにはオーストラリアへの短期留学、冬休みには韓国の姉妹校を迎えて異文化交流を毎年実践しています。

また、1 年間の海外留学を希望する生徒も毎年 6～8 人に及び、彼らの多くは、帰国後の本

校の学校生活において、クラスメイトへ好影響をもたらすほか、オープンスクールでの歓迎スピーチを留学先の言語で流暢に話す姿は、本校を志望する中学生達にとっては大きな魅力になっています。

留学制度以外の取組では、希望者を対象とした「グローバルスタディプログラム」を導入し、夏休み中にネイティブスピーカーの講師を招き、5日間の英語集中講座を実施しています。この企画は海外留学が実施できないコロナ禍を経て益々ニーズが高まり、費用を抑えながら留学さながらの体験ができる企画として人気を集めています。

以上の取り組みの他、英語各種検定を推奨するとともに、合格を目指します。

4. 生徒募集

生徒募集のための広報活動は、福岡県内の最多受験者数を維持し、安定した入学者数の確保に向けて、次のとおり生徒募集活動を行います。

(1) オープンスクール

土曜日に開催するオープンスクールを7月、8月、10月、11月に4回開催、8月に開催するICT公開授業、放課後のオープンスクールを9月と10月に2回開催します。これらの広報行事に中学生と保護者あわせ年間5,000名参加を目標に実施します。

(2) 塾対象説明会

附属中学校と附属高等学校で合同開催する塾関係者を対象とした説明を9月に開催します。

(3) 中学校・塾での説明会

中学校及び塾からの依頼により、本校の教員が訪問して説明会や出前授業を行います。

(4) 中学校PTAの見学受け入れ

北九州市内及び近郊の中学校PTAの見学を受け入れ、学校説明会と授業見学を行います。

Beyond
可能性をカタチに

附属中学校では、「K点突破」を合言葉に教科学習と体験学習のバランスの取れた教育課程を編成し、先進的・独創的な教育活動を展開することで生徒の学力や人間性を育みます。

将来の大学選択・職業選択へとつながる能力の礎を築き、地域No.1の中学校として生徒の可能性をカタチにします。

1. 教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」、「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。

教育活動全体を通して良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、体験型の学習を通して個性豊かな人間性の涵養に努め、基礎的な学力を習得させるとともに、思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培いながら、進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として、学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」、「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」、「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げ、成長段階に応じた自立を促し感性豊かな「人間力」を育てます。

また、「K点突破！」を合言葉に掲げ、自分の心の中に限界点を決めず、失敗を恐れず何事にも思い切って挑戦し続けることができるような教育課程を編成し、生徒一人ひとりの夢の実現を目指します。

2. 教科目標

科目	目 標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身に付け、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力や表現力を養成します。
数学	数学的な見方や考え方を育て、数学を学ぶよさ・楽しさ・必要性を感じることができ授業を展開します。また、授業中での活動やドリル学習などを通して、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得したり発展的な思考力を伸長したりします。
社会	地理・歴史・公民の学習を通して、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習の場面を多く設けることで、基本的な知識の定着や応用力の伸長を目指します。
理科	自然に対する興味や関心をもたせるとともに、目的意識をもって実験・観察を行いながら、探究的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフやレポート作成、論述などの場面を取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育てます。
英語	英語学習を通して5技能（Listening、Talking、Speaking、Reading、Writing）を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝えたり、相手の考えや気持ちを理解したりするようコミュニケーション能力を育みます。また、言語や文化に対する理解を深め、国際的な視野で世界の人々と強調し交流していく資質や能力を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取る力が向上を目指します。また、音楽祭に向けた合唱の練習を通して、曲のイメージや各音部の役割を理解する力や、協調して演奏する力や態度を養います。

美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに、豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	適切な運動を通して体力の向上を図るとともに、生涯に渡って運動に親しむ資質や、健康を保持増進したり、安全に配慮したりする実践力を育てます。また、心と体が密接に関係することを理解しながら、健康であり続けるための体作りの素養を養います。
技術・家庭	情報機器の使い方や情報モラルを含め、情報に関する技術が現代社会に果たす役割と影響について学び、それらを適切に評価・活用する能力や態度を養います。自立に必要な衣食住や、家庭の生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けます。また、実習を通して、手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことができる実践力を育みます。
道徳	道徳の時間や教科・特別活動など全ての教育活動を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としても生き方・豊かな心・道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	様々な体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習や事後のレポート作成などにも取り組みます。各種発表会のための準備、教育相談や校長面談に向けての自己分析・エントリーシートの作成などにも取り組みます。机の上の学習だけでは得られない実体験を通して、創造力・思考力・表現力を育みながら、「未見の我」の発見に努めます。

3. 教育設計「未来を創る人へ」

将来をたくましく生き抜き、リーダーとして新たな社会の構築に資する人材を「未来を創る人」と位置付け、その育成を目指して、教科学習と体験学習のバランスの取れた教育課程を編成し、先進的・独創的な教育活動を展開することで、生徒の自己肯定感を育みます。また、将来の職業選択・大学選択へとつながる礎を築き、地域No.1の中学校として、生徒の可能性をカタチにしていけます。

(1) 教科学習

充実した教師の指導力のもと、「input」と「output」のバランスがとれた学習指導を展開し、基礎学力、思考力・判断力・表現力など確かな学力を育みます。

① 柔軟できめの細かい授業体制

本校では1つの学年の教科指導を、複数の教員で担当します。また、3年生については、いずれかのクラスの授業を必ず担当することで、毎年、全ての教員が受験生を指導していきます。

複数で授業を担当するために教科会議を充実させ、指導内容・指導方法の検討、入試問題の分析、個々の生徒についての情報共有等を行って、組織的・協働的に、受験指導・教科指導・学習指導に取り組みます。

英語や数学においては、1年次から「求むクラス」「究むクラス」を設けて学習体制を複線化したり、3年次後半になると全教科で特別編成授業クラスを設けたり、放課後講座を実施したりするなど、生徒の実態や状況にあわせた授業や時間割を柔軟に編成していきます。

② 創意工夫を凝らしたテストの実施

テストは、能力を測定するだけでなく、身に付けておきたい学力を具体的な形で示す大事なツールでもあります。本校では、従来の定期考査や実力テストに加え、基本的な知識や技能の定着を図る「パーフェクト・トライ」、発展的な思考力や柔軟な創造力、確実な表現力を

必要とする「アクティブ・トライ」、受験のまとめの時期に総合的な学力の伸長を図る「プレップ・テスト」など、さまざまな形のテストを実施することで、生徒の学力を伸ばしていきます。

③ 教科横断型・連携型学習の取り組み

複雑に進化・発展した現代社会では、従来の教科という枠組みでは対応できないところが多くあります。そこで、現代社会が抱える問題や生徒が疑問に感じることをテーマに掲げ、複数の教科で連携・協働した学習に取り組みます。学びによって獲得した知識をもとに、思考・判断し、表現・発表する活動を通して、現代社会が抱える問題に関心を持つ意欲や態度を培っていきます。

④ ICT 活用教育の充実

生徒一人一人が所持するタブレット型 PC (iPad) とスタイラスペンを、情報の収集・整理・分析をはじめ様々な学習場面で活用し、学習の高度化・効率化を図っていきます。また、従来からのノートや学習プリントなども組み合わせ、デジタルとアナログの「ハイブリッド型学習指導」で、より深い学習を目指していきます。

(2) 体験学習

五感に触れる学びを通して、自他の幸福を実現する社会の実現に向けて考え・行動する力を育てます。

① 「未来を創る人へ」プロジェクト

「自分もみんなも幸せに過ごせる世界の実現」に向け自分で考え・行動できるように育てる取組みを、「『未来を創る人へ』プロジェクト」として展開します。

1年次は「世の中に触れよう、世の中について考えよう」をテーマに、家族と一緒に考えたことを作文にまとめ発表したり、地域の企業や商店等の経営に携わる方からお話を聞いたりする（社長さんに聞こう）ことを通して、今の世の中の様子を学びます。

2年次は「将来をどのように生きるかを描いてみよう」をテーマに、将来の世の中を自分なりにどのように生きるかを作文にまとめ発表したり、実際に行政に携わっている方からお話を聞いたりする（市役所訪問）ことを通して、世の中が抱える課題や問題点、それらに対する取組みの様子などを学びます。

3年次は「世の中のために自分は何ができるかを表してみよう」をテーマに、国際社会の一員として自分の意見や取り組みたいことを英文にまとめ発表したり、外国で暮らす人々と出会い、文化や習慣の違いを肌で感じたりしながら（海外体験教室）、世界の中で生きる一人の人間としての目標や道標を築いていくようにします。

② 北九ウォーク・宿泊体験教室

日常とは異なる環境の中で仲間との絆を深めたり、日本や海外の人々の暮らしや歴史・文化を学んだりする場として、全学年参加の「北九ウォーク」や、「九国チャレンジ教室（1年次）」、「古都探訪教室（2年次）」、「海外体験教室（3年次）」などの宿泊体験学習を実施します。

③ 個人や集団で活動し表現する場

「音楽祭」「体育祭」「文化祭（文化発表会）」などの学校行事は、日頃の授業や学校生活で

培われた能力を最大限に披露する場です。また、進路が決まった生徒が取り組む「自分発表会」は、それまでに培った能力と将来の自分を結びつけることができる場です。このような場の活動の様子から、学校として取り組みを振り返り、総括していきます。

(3) 学習支援

学習への関心を高めさせるとともに、学習習慣を身に付けさせ、自分の力で課題を設定し、解決に向けて取り組む態度や能力を育みます。

① 自主学習への支援体制

日々の学習計画の作成と KTN（家庭学習）の活動を通して、自分が作った学習計画に従って登下校時の所持品を決める「荷物の軽量化」を進めるとともに、実際の学習や生活の様子を記録として残していきながら、生徒が自主的に学習に取り組むことができるように支援していきます。

② 教科特性を生かした学びや活動

年間を通して、詩集や学校誌の制作、学習レポートや授業作品の展示、「百人一首大会」や「英語プレゼンテーションコンテスト」等の学習行事の開催など、各教科の特性に応じた学びの場を設けていきます。また、様々な自然現象に関心を持ち、自分でじかに触れることができるように、理科の実験の場面をより多く設けていきます。

③ 学術コンテストや文芸作品コンクールへの参加

「科学の甲子園ジュニア」や「英語弁論大会」など校外で開催されるコンテストや、自由研究や作文等の様々な作品コンクール等に積極的に参加できる体制を設け、参加者を支援していきます。

④ 三冠王+準2トリプルクリア

英検等の検定は履歴書等に記載できる資格にとどまらず、どの程度まで学習できているかを示すバロメーターにもなります。英検・漢検・数検3つの検定を学習の柱に据え、生徒全員が、3つの検定全てで中学卒業レベルに相当する3級に合格することを目指します(三冠王)。また、複数の検定で高校課程の能力を要する準2級や2級以上の合格を目指す「準2トリプルクリア」への挑戦も支援します。

(4) 生徒指導・生徒支援

人と人との「つながり」を基に良好な人間関係が構築できる環境を整えるとともに、心身の健康やその維持への理解を深めさせ、生徒が自分自身の価値に気づき、自分を大切に生きていこうとする力を育みます。

① 一年次二人担任制

生徒が「中1ギャップ」を克服し、スムーズに中学校生活に入っていけるよう、1年次に男女2人の担任を置き、生徒をきめ細かく観察し指導をしていきます。生徒にとって、相談など担任と気軽に話ができる環境となる上、教員にとっても、生徒をより多面的に見ることでよりの確な指導が可能となり、いじめの起こりにくい環境や、快適に学習に取り組める環境を作っていきます。

② 集団の中での円滑な人間関係の構築

様々な小学校から入学してくる関係上、生徒にとって人間関係を構築することは大きなテーマです。加えて、学齢期の大事な時期に新型コロナの影響を受けた今の生徒たちは、集団での生活に不安を持つ者も少なくありません。

授業・食事・活動など日々の学校生活に加え、クラスマッチ・北九ウォーク・宿泊体験教室などの行事や体験学習を生かしながら、生徒が集団の中で円滑な人間関係が構築できるよう支援していきます。

③ 教育相談・校長面談・スクールカウンセリング

青年期前期の中学生は、友人関係、学校や家庭での生活、学習や進路のことなどで悩んだり苦しさを感じたりすることが多くなる年頃です。そこで、年に2回、個々の生徒と学級担任とが向き合っってじっくり話をする場を設けています（教育相談）。また、学校長も、年に1回、全校生徒と対面し、夢や目標などについて語り合う場を設けています（校長面談）。

なかには、家族にも学校の先生にも話をするのを戸惑う生徒もいます。そこで、専門のカウンセラーによる「スクールカウンセリング」を実施し、不安を抱える生徒を支援する体制をつくっていきます。

④ 健康であり続けるための体づくり

自分の能力を最大限に発揮するためには「健康の保持増進」が大変重要であることから、家庭科・保健体育科・保健室が中心となり、食事・運動・生活など健康の基になる営みを科学的に捉え・考え・学ぶことで、生涯健康であり続けるための基礎力を育てていきます。

(5) 進路指導

将来のなりたい自分の姿に関心を持ち、進路について考える姿勢や態度を養います。

① 高校自由選択制

中学生にとっては「高校入試」は大切な節目であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。高校進学にあたってどの学校を選択するかは、本人と保護者が決定し、入試に立ち向かわせる方針を取ります。併設校である付属高校への進学は、付属高校を受験すれば原則として保証されますが、よりハイレベルクラスへの合格を目指す高い意識で受験できるよう支援します。

② 高校入試で学力形成

これから生きる子どもたちには、「レベルの高い知識や技能」、「知識や技能を生かした思考力・判断力・表現力」、「知的関心や意欲・学ぶ姿勢」が求められます。子どもたちの将来を考えると、これらの基礎となる力を、中学生のときにしっかり身に付けておくことが大切と考えます。

本校では、高校入試を、学力を形成する絶好の機会と考え、付属高校や公立高校の入試問題に取り組みながら「知識や技能」「思考力・判断力・表現力」を育てていきます。

4. 生徒募集・学校広報活動

私立学校を取り巻く環境が大きく変化する中、北九州地域の私立中学校間の競争も激しさを増してきました。その中で質の高い入学生を一定数確保できるよう、これまで以上に、生徒募

集活動に力を入れていきます。

本校では、学習指導・体験学習・スクールライフを3本柱として様々な教育活動に取り組んでいて、在校生や卒業生、保護者から評価・支持されています。しかし、近年は、大幅なモデルチェンジがないこともあって、小学生やその保護者には「本校の特別感が普通のもの」と受け止められている傾向があります。目新しさを売りにする他校に対して、本校のもつ真のよさをどのようにアピールしていくかが大きな課題になってきました。

オープンスクールや学校見学ツアーなどの広報行事やホームページ・インスタグラム等の情報発信を充実させるとともに、特に今年度は、パンフレットの内容を工夫し、本校の特別感を目に見える形で伝えていくことに力を入れていきます。

Beyond

可能性をカタチに

学園の未来を支える中核として、設置学校の挑戦を力強く支援し、持続可能な経営基盤を築きます。

「透明性」… 情報公開と説明責任を徹底し、信頼される法人運営を行います。

「信頼性」… 正確・迅速な事務処理と、法令遵守を徹底します。

「協働性」… 設置学校と連携し、課題解決に向けて共に考え行動します。

「持続性・革新性」… 財務健全性を重視し、持続的安定経営を実現します。

1. 管理・運営

急激な社会変化に対応するため、経営方針の「見える化」を進め、教職員が主体的に学園運営へ参画する体制を整えます。また、挑戦を支える風土づくりとウェルビーイングの向上に取り組み、組織力を高めます。この実現のために、透明性と信頼性を重視したガバナンス強化を図り、持続可能な経営基盤を確立します。また、ICT活用による業務効率化と情報連携を促進し、付加価値の高い業務に集中できる環境を整備します。これらを通じて、九国ブランドの価値向上と経営理念の実践を全学的に推進します。

(1) 内部統制システムに基づく適切な業務の運営

- ① 経営に関する管理体制の評価と改善
- ② リスク管理体制の評価と改善
- ③ コンプライアンス管理体制の評価と改善
- ④ 改正私学法に基づく新たな監査体制の確立

(2) 人事政策

- ① 働きやすい職場環境の整備と人的資源の戦略的マネジメント
- ② 附属学校教員の新人事制度構築
- ③ 大学教員の人事考課制度の検討
- ④ デジタル対応力の強化と次世代人材の育成
- ⑤ 計画的な組織再編と教職員の適正配置
- ⑥ 定年延長を見据えたシニア職員の活躍支援
- ⑦ 資格取得支援・キャリア自律支援の強化
- ⑧ 処遇改善に向けた取り組み

(3) ICT 戦略による業務改革

- ① AI 活用による業務効率化
- ② 情報セキュリティ・BCP（災害時事業継続）の強化
- ③ ペーパーレス化の本格推進
- ④ 教育 DX の推進

(4) ブランディング力の強化

- ① 看護学部新設を柱とした学園のイメージ・ブランド価値の向上(令和9年4月開設予定)

- ② 学園全体の一体感を高め、イメージを一新する「統合広報戦略」の推進
- ③ 同一学園内進学・教育連携・連携イベントの推進に向けた取組支援
- ④ 大学・高専機能強化支援事業を活用した情報系学部新設に向けた計画策定
- ⑤ 周年事業の企画を活用したブランド価値向上（学園創起 100 周年ほか）

(5) ウェルビーイング活動

- ① 労務データの活用による働き方改善
- ② 健康増進・メンタルヘルス支援の充実
- ③ 労働災害の防止と安全な職場環境の整備
- ④ 外部専門家との連携強化による安心・安全な法人運営体制の構築

2. 施設拡充関係

令和 8 年度は、法令順守と学生・生徒の安心安全の確保を最優先としつつ、看護学部新設計画（令和 9 年 4 月予定）に基づき、1 号館の大規模改修を最重要施策として進めます。これに加え、施設の老朽化や損傷への計画的な修繕、設備機器の点検保守を着実にを行い、保全計画の体系化と費用平準化を図ります。

また、データに基づくファシリティ分析を引き続き強化し、利用状況や修繕優先度の“見える化”を進めながら、限られた予算でキャンパス価値を最大化する持続可能な施設運営をめざします。看護学部の新設を契機として、教育研究環境の質の向上と、次世代を支えるキャンパスづくりを推進します。

<重点項目>

- ① 看護学部新設計画に基づく大規模改修工事（最重要施策）
- ② 戦略的な施設アセスメントの実施
- ③ 修繕・保全計画の見える化及び予防保全への転換
- ④ 所有建造物の長寿命化計画に基づくファシリティ・マネジメント
- ⑤ 入札制度の厳正運用によるコスト削減及び SDGs を意識した環境負荷低減対策
- ⑥ 魅力あるキャンパスづくりに向けたアクションプラン
- ⑦ 教授法改革と連動した教育の情報化支援

(1) 機器・備品整備関係

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	1 号館 1・2 階	看護学部設置に伴う機器備品一式
	2 号館 各教室	出席カードリーダー
	3 号館 事務室	複合機
	平野キャンパス 各棟	A E D 一式
	メディアセンター サーバールーム	UTM 機器一式
	1 号館 入試広報室	iPad 一式
	平野記念館 体育館	映像配信システム
	2・3 号館 各教室	操作卓等取替
枝光キャンパス (高等学校)	第 2 体育館 アリーナ	エアコン
	B 棟 普通教室	電子黒板

枝光キャンパス (中学校)	B 棟 職員室	iPad 一式
	B 棟 事務室	複合機
	A 棟 普通教室	電子黒板
	A 棟 玄関ホール	デジタルサイネージ機器一式
	A 棟 職員室	綱引きロープ巻き取り機

(2) 施設整備関係

部門	設置場所	件名
平野キャンパス (大学)	1号館 1・2階	看護学部新設計画に基づく大規模改修工事
	メディアセンター 1階	空調機取替工事
	1号館裏	のり面補修工事
	学生・教職員駐車場	アスファルト舗装改修工事
	研究棟裏	受水槽取替工事
	メディアセンター サーバ-室	空調整備工事
	2号館・平野記念館	エレベーター不具合改修工事
	KIU ホール	氷蓄熱1号機基盤取替工事
枝光キャンパス (高等学校) (中学校)	平野キャンパス内	消防設備更新工事
	枝光キャンパス	中央監視盤更新工事(第一期)
	C棟 厨房	空調設備設置工事
	共用棟(主管・地下・2階)	給水管布設替え工事
	C棟 受電設備	キューピクル改修工事
	C棟・D棟	エレベーター不具合改修工事
	B棟・D棟 各教室	空調吹き出し口他修繕工事
枝光キャンパス内	消防設備更新工事	

(3) 情報政策関係(主な事業)

令和8年度は、教育の質向上と業務の効率化を同時に進めるため、DX推進とAI活用を軸とした情報政策を展開します。学習支援や授業づくりへのAI利用、データに基づく教育改善を進めるとともに、電子決裁や文書管理のデジタル化を拡充し、教職員の負担軽減と業務スピードの向上を図ります。

また、情報セキュリティ対策を強化し、安全で持続可能なICT環境を整備することで、未来の教育にふさわしい情報基盤づくりを進めます。

<重点項目>

- ① 大学生に対するPC必携化を前提とした授業等での活用推進
- ② 大学・付属高等学校間の連携によるICT活用事例の情報交換及びノウハウの共有
- ③ AI支援による業務・授業改善とデータ分析の活用
- ④ 業務プロセスのデジタル化拡充と電子決裁・文書管理の推進

3. 社会貢献関係

現在進行中の看護学部新設計画(来年4月開学予定)については、「看護学部設置・運営に関する包括地域連携協定」を締結した北九州市八幡医師会や地域内4大基幹病院、加えて、北九州市・福岡県等、地域からの支援を後ろ楯としており、この計画を達成することが地域社会への貢献につながります。

また、今年度も、地域密着型の総合学園として、その特色を活かし、地域をフィールドとした調査・研究・学修等の諸活動を通じて、地域に必要とされる学園となるために、教職員・学生・生徒が一丸となって地域の課題解決に寄与する社会貢献活動を推進してまいります。

4. 財務関係

令和8年度は、看護学部新設計画（令和9年4月予定）に基づき、1号館を改修する戦略的投資を自己資金で実施します。これにより一時的な支出超過が見込まれますが、費用平準化と支出・出納管理の徹底により財務の健全性は維持されます。なお、当該投資を除く通常事業では収支均衡を堅持し、教育の質向上とブランド価値向上に資する取組へ重点配分します。

加えて、金利上昇局面であることを踏まえ、余裕資金の運用の最適化により利息収入の増強を図ります。必要に応じて運用期間の分散を行い、収益機会の確保と安全性の両立を追求します。

(1) 収入の維持改善に向けた取り組み

<重点項目>

- ① 全学的な学生確保戦略と学費改定効果を最大化するための体制整備
- ② 施設・学内資産の戦略的活用による自主財源の拡大と安定的収入基盤の確立
- ③ 寄附・外部資金の戦略的拡大
- ④ 金利上昇局面を踏まえた余資運用収入の増強

(2) 支出の維持改善に向けた取り組み

<重点項目>

- ① 看護学部新設に伴う戦略的投資の適正管理（1号館改修）
- ② 入札制度の厳正運用による継続的なコスト削減
- ③ 光熱水費のモニタリングと省エネ施策の強化
- ④ IT関連コスト・オフィスコストの最適化
- ⑤ 不採算事業の抽出と体系的な見直し

(3) 第4期中期経営計画に基づく財務計画

<重点項目>

- ① 教育の質保証に向けて学校の魅力を高める教育改革への投資
- ② 学生生徒の満足度を高める教育環境整備への投資
- ③ 恒常的経費削減と最小予算による最大効果の発揮

5. 中長期計画関係

令和8年度は、『第四期中期経営計画（2024～2028：5ヶ年）』がスタートして2年が経過し、折り返しの場面となります。経営理念に掲げたビジョン達成のために、設定した数値目標（KPI指標）の進捗状況及び達成度を確認するとともに、必要に応じて軌道修正も加えながら、目的の

達成に向けて業務を遂行してまいります。

特に、看護学部新設計画（令和9年4月開学予定）については佳境に入ります。認可承認に向けて、大学と一体となってその準備に邁進します。

6. 情報公開

対外的には、法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。このほか、「学園情報誌（キュウトビ）」等を発刊し、本学園の取り組みや財務情報、学生活動を紹介するなど、広く情報提供するとともに「大学ポートレート（私学版）」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

また、対内的には、教職員の経営意識の醸成や情報共有の高度化を図るために、理事長メッセージや理事会等での決定事項等を定期的に発信するなど、経営方針の「見える化」を推進してまいります。

Ⅲ. 令和8年度予算概要

1. 事業活動収支予算

(単位：百万円)

科目		予 算			備 考	
		全 体	既存組織	新学部		
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,499	2,499	0	
		手数料	77	77	0	入学検定料等
		寄付金	20	20	0	施設関係寄付金は特別収支に計上
		経常費等補助金	1,179	1,162	17	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	23	23	0	寮、エクステンション講座等の補助活動収入
		雑収入	117	117	0	施設設備利用料等
		教育活動収入計	3,915	3,898	17	
	支出	人件費	2,248	2,231	17	
		教育研究経費	1,461	1,456	5	
		内 減価償却費	289	289	0	
		管理経費	681	370	311	事務管理費、学生募集経費
		内 減価償却費	39	39	0	
		徴収不能額等	0	0	0	
	教育活動支出計	4,390	4,057	333		
教育活動収支差額（償却前）		▲146	169	▲315		
教育活動収支差額		▲474	▲159	▲315		
教育活動外収支	収入	教育活動外収入計	28	28	0	受取利息・配当金
	支出	教育活動外支出計	0	0	0	
	教育活動外収支差額		28	28	0	
経常収支差額（償却前）		▲118	197	▲315		
経常収支差額		▲446	▲131	▲315		
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	
		施設設備寄付金	0	0	0	
		施設設備補助金	4	4	0	
	特別収入計		4	4	0	
	支出	特別支出計	0	0	0	
特別収支差額		4	4	0		
[予備費]		30	30	0		
基本金組入前当年度収支差額		▲472	▲157	▲315		
基本金組入額合計		▲785	▲184	▲601		
当年度収支差額		▲1,257	▲341	▲916		

※1) 上記の事業活動収支予算は学校法人会計基準に基づくもので、単年度の収支を3つの区分（教育活動収支・教育活動外収支・特別収支）毎に表示したうえで全体の収支を示したものです。

※2) 単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と一致しません。

2. 予算編成方針等

令和7年度は、第四期中期経営計画「Beyond - 可能性をカタチに ～そのことは、学生・生徒のためになることか～」の2年目を迎え、教育・研究・社会貢献のさらなる充実を目指し、着実に取り組みを進めてまいりました。

令和8年度の予算編成にあたっては、第四期中期経営計画（2024-2028）の進捗状況を十分に検証するとともに、教育機関を取り巻く環境変化を踏まえ、限られた資源を最大限に活用し、学生・生徒の学びと成長に資する施策を優先的に位置づけることが求められます。

特に、看護学部新設に向けた準備が本格化することに伴い、施設整備や人材確保等に要する経

費の増加が見込まれています。これらの投資は、将来的な教育の質の向上および地域社会への貢献につながる重要な取り組みであることから、財政の健全性を確保しつつ、計画的かつ着実に進めていく必要があります。持続可能で柔軟な財政運営を実現するため、長期的視点に立った財政計画の策定を進めるとともに、教育環境の質を維持しながら、効率的な経営資源の活用を推進します。

将来的に安定した財政基盤を維持するためには、事業活動収支の基本構造が収支均衡するよう予算を編成することが原則ですが、令和8年度は、看護学部新設に向けた投資が本格化することから、事業活動収支は収支均衡を下回ることを想定されますが、これは計画的な投資によるものです。

また、文部科学省主導による「学校法人運営調査等における経営指導の充実・強化」がこれまで以上に拡大されるなど、財務状況の様々な比率にも注視する必要があります。これらを踏まえ、令和8年度の予算については、看護学部新設に伴う投資的経費を特例的に取り扱い、それらを除いた部分において収支均衡を堅持することを念頭に置いた編成としています。



発行 / 学校法人 九州国際大学 法人事務局
〒805-8513 北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL : 093-671-8900 / FAX : 093-671-9032